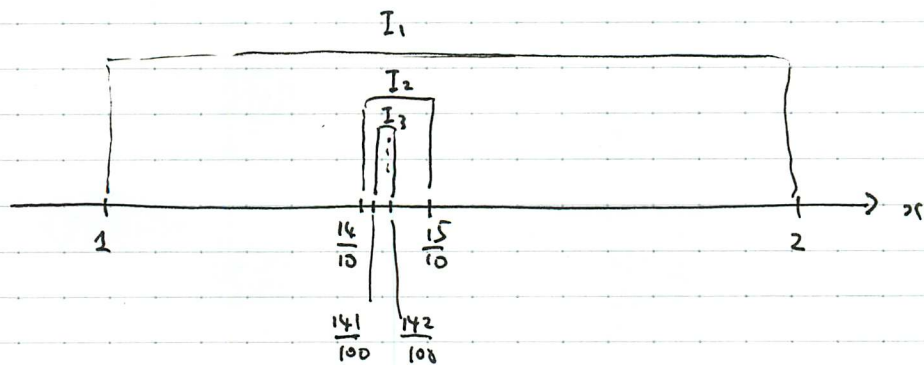


$$(1.41)^2 = 1.9881, \quad (1.42)^2 = 2.0164 \quad \text{よ}$$

$$(1.41)^2 < a^2 < (1.42)^2 \quad \therefore \frac{141}{100} < a < \frac{142}{100}$$

$$\text{さらに狭めると} \quad \frac{1414}{1000} < a < \frac{1415}{1000}$$

これを数直線上で表わると...



として、 $a$ の存在する区間の幅をどんどん狭めていく  
ことができた。すなわち、 $a$ の値を有理数で何桁  
でも近似することが可能。

★ Cantor のアイデア (区間縮小法)

区間の列:  $I_n = [a_n, b_n], \quad |I_n| = b_n - a_n$

$I_1 \supseteq I_2 \supseteq \dots \supseteq I_n \supseteq I_{n+1} \supseteq \dots$

$n \rightarrow \infty$  のとき、 $|I_n| \rightarrow 0$  とする

(区間の縮小列)

このとき、すべての区間  $I_n$  にわたって 共通 の点  $a$  が存在  
すると 認め、これを 1つの実数 とおく!

すなわち、ある  $a \in \mathbb{R}$  が 存在して

$$\bigcap_{n=1}^{\infty} I_n = \{a\}$$

**実数の連続性公理**

**公理** ... 理論の出発点として、証明が1つに認めら  
る定理のよきもの (性質など)

⑩ 連続性公理のいくつかの異なる表し方

連続性公理は、いくつかの異なる表し方 (同値な命題)  
Cantor 原理  
で表すことができる (詳しくは3学期の微積分Ⅱ)

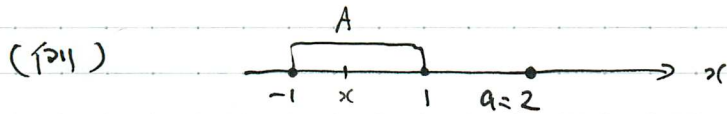
(p.8) 上に有界な非減少数列の極限值をもつ.

⑪ 集合の上界, 下界, 上限, 下限. 最大値, 最小値.

$A$ :  $\mathbb{R}$  の空でない部分集合, (例)  $A = [-1, 1]$

定義 (上界, 下界)  $a \in \mathbb{R}$  とする.

(1)  $a$  が  $A$  の上界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} \forall x \in A, x \leq a$ .

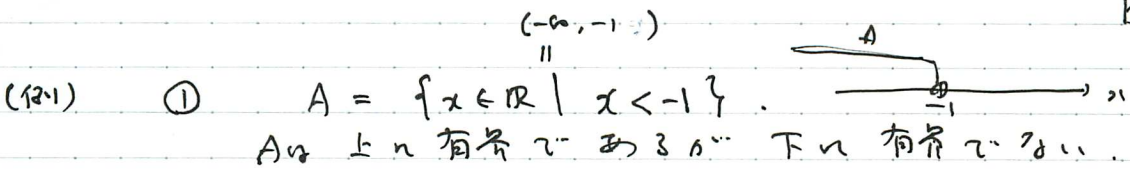


(2)  $a$  が  $A$  の下界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} \forall x \in A, x \geq a$ .



定義 (上 $n$ 有界, 下 $n$ 有界)

- (1)  $A$  は上 $n$ 有界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} A$  の上界が (少なくとも1つ) 存在する.
- (2)  $A$  は下 $n$ 有界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} A$  の下界が ( ) 存在する.
- (3)  $A$  は有界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} A$  は上 $n$ 有界かつ下 $n$ 有界.



②  $A = \{x \in \mathbb{R} \mid -1 \leq x \leq 1\}$ .  
 $A$  は有界.

定義 (上限, 下限)  $a \in \mathbb{R}$  とする.

(1)  $a$  が  $A$  の 上限 (最小 上界) とする.

$a$  が  $A$  の 上界 の 中 の 最小 値 である こと を 示す.

$$\textcircled{1} \quad \forall x \in A \quad x \leq a$$

$$\textcircled{2} \quad \forall \varepsilon > 0 \quad \exists x \in A \quad \text{s.t.} \quad x > a - \varepsilon$$

を示す こと により  $a = \sup A$  である.  
(supremum)

(2)  $a$  が  $A$  の 下限 (最大 下界) とする.

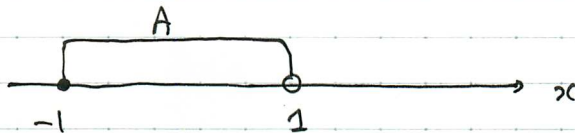
$a$  が  $A$  の 下界 の 中 の 最大 値 である こと を 示す.

$$\textcircled{1} \quad \forall x \in A \quad x \geq a$$

$$\textcircled{2} \quad \forall \varepsilon > 0 \quad \exists x \in A \quad \text{s.t.} \quad x < a + \varepsilon$$

を示す こと により  $a = \inf A$  である.  $\square$   
(infimum)

(例)  $A = [-1, 1)$  のとき.



$\max A$  : 存在しない.  $\min A = -1$ .

$\sup A = 1$ ,  $\inf A = -1$ .

定義 (最大値, 最小値)  $a \in \mathbb{R}$  とする.

(1)  $a$  が  $A$  の 最大値  $\stackrel{\text{def}}{\iff} a \in A$  かつ  $a$  が  $A$  の 上界.

を示す.  $a \in A$  かつ  $\forall x \in A \quad x \leq a$ .

$a = \max A$  である.

(2)  $a$  が  $A$  の 最小値  $\stackrel{\text{def}}{\iff} a \in A$  かつ  $a$  が  $A$  の 下限.

を示す.  $a \in A$  かつ  $\forall x \in A \quad x \geq a$ .

$a = \min A$  である.  $\square$

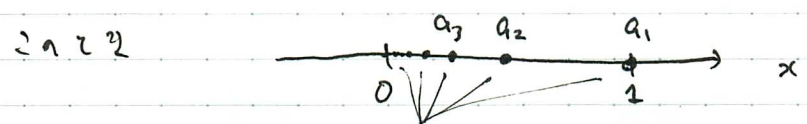
① 数列 : 実数を番号  $n$  に従って並べたもの.  
 $a_1, a_2, a_3, \dots$   $a_n \in \mathbb{R}$ .

$\{a_n\}$  数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  と書く.

定義 (数列の有界性)  $\{a_n\}$  : 数列  $\in \mathbb{R}$ .

- (1)  $\{a_n\}$  が 上  $n$  有界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} \{a_n | n \in \mathbb{N}\}$  が上  $n$  有界
- (2)  $\{a_n\}$  が 下  $n$  有界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} \{a_n | n \in \mathbb{N}\}$  が下  $n$  有界.
- (3)  $\{a_n\}$  が 有界  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} \{a_n\}$  が上  $n$  有界かつ下  $n$  有界.

(例)  $a_n = \frac{1}{n}$ .  $\{a_n\} = \{1, \frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \dots, \frac{1}{n}, \dots\}$



↓ (4/24)  
 この点全体の集合が  $\{a_n | n \in \mathbb{N}\}$   
 $\{a_n\}$  が有界.

↓ 定義 (数列の単調増加, 単調減少)  $\{a_n\}$  : 数列.

(1)  $\{a_n\}$  が 広義単調増加 (非減少)  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} a_1 \leq a_2 \leq a_3 \leq \dots$

(2)  $\{a_n\}$  が 広義単調減少 (非増加)  $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} a_1 \geq a_2 \geq a_3 \geq \dots$

② 以上より、以下、再び実数の連続性公理.

(p.8) 公理 広義単調増加  
 上  $n$  有界な (非減少) 数列は極限値をもつ.  
広義単調減少  
 (下  $n$  有界な (非増加) 数列は極限値をもつ.)

$\{a_n\}$  :  $a_1 \leq a_2 \leq a_3 \leq \dots$  広義単調増加

$\exists a$  :  $\{a_n | n \in \mathbb{N}\}$  の上界  $\Rightarrow \{a_n\}$  は収束する.  
 (その極限値が 1 つの実数になる)

④ 連続性公理の応用：自然対数の底  $e$  の存在

定理 1.3 (p.9)  $a_n = \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n$  ( $n=1, 2, \dots$ ) で  
極限値を  $e$  とす。

定数列  $\{a_n\}$  の

広義単調増加

(Proof) 連続性公理の  $\{a_n\}$  が  $e$  かつ  
上  $n$  有界であることを示す。

準備  $n \geq 2$  のとき、

$$a_n = \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = \sum_{k=0}^n \binom{n}{k} 1^{n-k} \cdot \left(\frac{1}{n}\right)^k$$

二項定理

$$\parallel$$

$${}_n C_k = \frac{n(n-1)\cdots(n-(k-1))}{k!}$$

(二項係数)

$$= 1 + \binom{n}{1} \frac{1}{n} + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} \frac{n}{n} \cdot \frac{n-1}{n} \cdot \frac{n-2}{n} \cdots \frac{n-(k-1)}{n}$$

$$= 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} \left(1 - \frac{1}{n}\right) \left(1 - \frac{2}{n}\right) \cdots \left(1 - \frac{k-1}{n}\right)$$

と表されたこと  $n$  に注意す。

広義単調増加

(1)  $e$  であることを示す。

$$a_1 = 2, \quad a_2 = \left(1 + \frac{1}{2}\right)^2 = \frac{9}{4} \quad \text{より} \quad a_1 < a_2.$$

$n \geq 2$  のとき、

$$a_n = 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} \left(1 - \frac{1}{n}\right) \left(1 - \frac{2}{n}\right) \cdots \left(1 - \frac{k-1}{n}\right)$$

$$< 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} \left(1 - \frac{1}{n+1}\right) \left(1 - \frac{2}{n+1}\right) \cdots \left(1 - \frac{k-1}{n+1}\right)$$

$$< 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} \left(1 - \frac{1}{n+1}\right) \left(1 - \frac{2}{n+1}\right) \cdots \left(1 - \frac{k-1}{n+1}\right)$$

$$+ \frac{1}{(n+1)!} \left(1 - \frac{1}{n+1}\right) \left(1 - \frac{2}{n+1}\right) \cdots \left(1 - \frac{n}{n+1}\right)$$

$k = n+1$  の項。

$$< 2 + \sum_{k=2}^{n+1} \frac{1}{k!} \left(1 - \frac{1}{n+1}\right) \left(1 - \frac{2}{n+1}\right) \cdots \left(1 - \frac{k-1}{n+1}\right) = a_{n+1}$$

ゆえに  $a_n < a_{n+1}$ .

ゆえに  $a_1 < a_2 < \cdots < a_n < \cdots$  ゆえに  $\{a_n\}$  は単調増加.

(2)  $a_n$  有界であること.

$$a_1 = 2 < 3,$$

$n \geq 2$  のとき.

$$a_n = 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} \left(1 - \frac{1}{n}\right) \left(1 - \frac{2}{n}\right) \cdots \left(1 - \frac{k-1}{n}\right)$$

$$< 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k!} 1 \cdot 1 \cdots 1$$

$$= 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{1 \cdot 2 \cdots k}$$

$$< 2 + \sum_{k=2}^n \underbrace{\frac{1}{2 \cdots 2}}_{k-1 \text{ 回}}$$

$$= 2 + \sum_{k=2}^n \frac{1}{2^{k-1}}$$

初項  $\frac{1}{2}$ , 公比  $\frac{1}{2}$  の等比級数の和.

$$= 2 + \frac{\frac{1}{2} \{1 - (\frac{1}{2})^{n-1}\}}{1 - \frac{1}{2}}$$

$$< 2 + \frac{\frac{1}{2}}{1 - \frac{1}{2}} = 2 + 1 = 3.$$

ゆえに  $n \geq 2$  のとき  $a_n < 3$ .

( $n$  が,  $?$ ,  $?$   $n \in \mathbb{N}$  に対し,  $a_n < 3$ .)

(1) (2) より,  $\{a_n\}$  は単調増加かつ上  $n$  有界であるので、  
実数の連続性公理により、極限値をもつ。 □

定義 定理 1.3 の  $\varepsilon$  として定めた極限値  $e$  を表す。 □